

**Advancing
science for more
time with family**

We advance science for life.



Company Profile

会社案内

► Greetings

ご挨拶



代表取締役社長
森川 智之

ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社は、1987年に創立し、さまざまな先端医療機器を日本に導入してまいりました。

医療機器メーカーにとって最も重要な役割は、未だ充分に満たされていない医療現場のニーズに応える革新的な技術や製品を提供し、疾患による負担の軽減を通じて、患者さんに貢献することです。

また、治療効果の高い医療機器の提供は、治療効果の維持や再治療率低下などの結果を生み、そして、医療現場の負担を軽減し、医療保険システムの安定と持続へと寄与します。ひいては日本が現在直面する高齢化と医療財政の課題解決の一助にも繋がると確信しています。

一方で、今後大きく変化する医療環境においては、多様なデータの利用やデジタルの有効活用などにより、私たちが持つ“時代の先読み力”を強化し、革新的な医療機器の日本への展開を加速してまいります。

課題と向き合い、困難をチャンスとして受け止め、自信と情熱をもって積極的に解決にあたる姿勢を持ち、医療従事者の皆さまと手を携えながら、患者さんアウトカム（治療結果）の改善に向けて邁進してまいります。

► Advancing science for life

ミッション／バリュー



ボストン・サイエンティフィックは
世界中の患者さんの健康状態を改善する
革新的な治療法を提供し
患者さんの人生を実り多いものにすることに
全力で取り組みます

► Core Values

わたしたちの大切な考え方や想い、価値観

| | | | | | |
|--|---|---|--|---|---|
| 誠実さと思いやり Caring | 多様性 Diversity | グローバルな連携 Global Collaboration | 高い業績 High Performance | 意義のあるイノベーション Meaningful Innovation | ウイニングスピリット Winning Spirit |
|  |  |  |  |  |  |

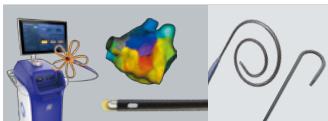
► Therapeutic Areas

日本における事業領域

ボストン・サイエンティフィックは、40年以上の間、グローバルなメドテックカンパニーのリーダーとして、医療現場の満たされていないニーズに対応し、医療効率を高める広範なソリューションを提供しています。日本においては、ここで紹介する治療領域において、患者さんの人生を実り多いものにすることに全力で取り組み、日本の医療に意義のあるイノベーションを起こしていきます。

エレクトロフィジオロジー —

心房細動等不整脈の電気生理学治療に用いる製品群



左心耳閉鎖デバイス —

左心耳を閉鎖することで非弁膜症性心房細動による脳卒中を予防する製品



ペリフェラル インターベンション

末梢動脈疾患(閉塞性動脈硬化症・バスキュラーアクセストラブル・腎動脈狭窄症など)の治療に用いる製品群



エンドスコピー —

消化器系の癌やポリープ、胆石症、消化管狭窄症などの治療、呼吸器疾患の診断・治療に用いる製品群



ニューロモジュレーション

慢性難治性疼痛治療および不随意運動の治療に用いる製品群



インターベンショナル カーディオロジー

心筋梗塞や狭心症など、冠動脈疾患の狭窄部を診断・治療する製品群



カーディアック・リズム・ マネジメント

心不全・不整脈治療に用いる植込み型製品群



ウロロジー

結石・前立腺肥大症などの泌尿器疾患治療、前立腺がんに対する放射線治療、尿失禁治療に用いる製品群



►Great Place to Work

目的意識を持った、多様な働き方をサポート

フレックス制度や在宅勤務など、多様性や生産性にフォーカスした働き方の多様性を推進。コアタイムを廃止するなど、新しい働き方で業務効率をあげ、ビジネスを成長させています。

キャリアオーナーシップ



社員の自律的キャリア開発を促進するため、応募型研修や社内公募制度を積極的に活用しています。「社内インターンシップ」を導入し、社員が現職を続けながら興味のある仕事を6ヶ月間体験できる機会を提供しています。この制度は、社員の視野や経験を広げ、人と組織のパフォーマンスの最大化に貢献しています。私たちは、グローバルな活動とともに、日本の組織ニーズに応じた施策も実施しています。

働き方の多様性推進



一人ひとりが自律性を高め、仕事に合わせた生産的な働き方・場所選びができるよう、機能・目的に応じて、分けられたエリアを設定し、最適な場所を選んで働くことができるABW（アクティビティ・ベースド・ワーキング）を導入。リモートと出社勤務を併用したハイブリッド勤務体制へ移行。コアタイムを廃止したスーパーフレックスタイム制度により7時から20時の間でフレキシブルな勤務が可能です。

すべての社員が自分らしく働ける職場へ



私たちは、多様な価値観や背景を持つすべての社員が自分らしく働ける職場づくりを推進しています。障がいのある方の採用や、女性管理職の登用にも積極的に取り組んでおり、産休・育休からの復帰率は100%、男性社員の育児休暇取得率は70%を達成しています。性的指向や性自認に関わらず、すべての社員が働きやすい環境の整備を進めており、同性婚についても法律婚と同様に対応しています。

►企業の社会的責任 (CSR)

私たちのコアバリューと誠実さへのコミットメントのもと、私たちはヘルスケア企業として、どのように活動し、私たちを取り巻く社会にどう貢献していくかにも責任があります。



革新的なケア

- **4,400万人**以上の患者さんへケアを提供
- 約**100件**の新製品を上市
- 年間**16億ドル**の研究開発費



社員の能力開発

- **91%**の従業員が「ボストン・サイエンティフィックで働くことを誇りに思う」と回答
- メディカルリサーチ、フェローシップ、教育および慈善活動などに対し、**8,900万ドル**以上を拠出
- **99%**以上の従業員がコンプライアンス研修を修了し、**96%**がサイバーセキュリティ研修を受講¹



より良い地球環境へ

- 主要な製造・流通拠点において、再生可能電力の使用率**100%**を達成²
- 非有害廃棄物の**75%**をリサイクルするなど、廃棄物削減にも注力³
- **72%**の不動産が独立した機関によるエネルギー効率の認証を取得⁴



1 Excludes direct labor.

2 Includes renewable electricity generated onsite (e.g., solar) and purchased electricity matched with electricity attributed to renewable sources via energy attribute certificates (EACs) purchased through the open market, purchased through an energy service provider, or associated with virtual Power Purchase Agreements.

3 Inclusive of all manufacturing and key distribution sites only.

4 Percentage of all Boston Scientific real estate (including commercial, leased and owned) that is independently certified for energy efficiency by industry-leading bodies such as LEED for design or ISO 50001:2018 for building operations.

► Institute for Advancing Science (IAS)

EDUCARE

EDUCAREは、“EDUCATION”と“CARE”を組み合わせて名づけた、世界中の市場に製品テクノロジーを提供している私たちならではの「医療従事者向け教育プログラム」のブランド名称です。グローバル全体で患者ケアをサポートする包括的な教育とトレーニングのプログラムを提供します。



医療従事者の方々に、当社の製品を安全かつ適正にご使用いただくことを目的に、1998年、インターベンション治療トレーニングセンターのパイオニアとして、最先端の設備と充実したプログラムを備えた施設を開設しました。

現在では、米州、欧州、アジア、アフリカなど世界各地に拠点を展開し、グローバルで25か所に広がっています。日本国内では東京と宮崎の2か所に拠点を設けており、宮崎の施設は2025年にリノベーションを完了し、より快適で機能的な環境へと生まれ変わりました。

東京と宮崎の両施設では、当社製品の安全かつ適正な使用を支援するため、最新の製品情報や医療技術をご紹介しています。医療従事者の方々が、治療戦略を立てる際や、現場で直面

する課題を解決するためのプログラム（カリキュラム）をご用意しており、臨床に近い環境でのトレーニング（シミュレーションを含む）も提供しています。

また、IAS宮崎では、地域貢献の一環として、地元の中学生や高校生を対象に企業見学を実施しています。このプログラムは、若い世代にさまざまな職業や企業の取り組みを知ってもらい、将来の進路を考えるきっかけとなることを目的としています。

► 横浜物流センター (YDC)

海外拠点から輸入した医療機器を国内で販売・流通できるように、ラベルの添付や包装を行い、より迅速に製品を全国のお客様へ向けて出荷しています。

設立以来、積極的にリサイクルプログラムを推進しており、2013年からは、返却輸送箱の一部や緩衝材の再利用による廃棄削減を実施、固体廃棄物を削減しました。

また、日本の医療機器・製薬メーカーとしては、いち早く自動ロボット制御ピッキングシステムであるAutoStoreを導入し、より効率的で正確な製品の先入、先出を実現しています。

このシステムの導入により、特定のロット番号を有する製品をピックアップすることが可能となり、例えば、製品の滅菌有効期限切れによる廃棄削減にも役立っています。

次世代のオートメーションやセンサーを使ったIoT技術により、弊社のサプライチェーン機能は大幅に強化されました。今後も、サードパーティ・ロジスティック企業と戦略的なパートナーシップを組み、直面する課題を見据えて解決していきます。



会社概要

ボストン・サイエンティフィック コーポレーション

所 在 地 米国マサチューセッツ州 マールボロ
最高経営責任者 マイク・マホーニー (CEO)
海 外 拠 点 北米、南米、ヨーロッパ、中近東、アフリカ、
アジア・パシフィック、日本

ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社

本社所在地 〒164-0001 東京都中野区中野4-10-2 中野セントラルパークサウス
事 業 所 本社、札幌、仙台、北関東、東京、金沢、名古屋、大阪、広島、福岡、
横浜物流センター、IAS東京、IAS宮崎
創 立 1987年
代表取締役社長 森川 智之
主要取引先 全国主要病院
事 業 内 容 医療機器の輸入および販売
医療に関する情報提供サービス
医療に関するセミナー、講演会、展示会の開催など医療機器の臨床開発、
薬事申請およびこれらに付随・関連する業務

沿革



紫文字(米国) / 青文字(日本)

ボストン・サイエンティフィックの原点には、「低侵襲な治療によって、患者さんの人生をより実りあるものにできる」という創業者の強い信念があります。革新を実現するには、技術だけでなく、洞察・勇気・そしてコラボレーションが不可欠であるという考えは、今も私たちのDNAに受け継がれています。

私たちは常に、現状に満足することなく、医療従事者とともに声を聴き合い、学び合いながら、人生をより長く、豊かにするソリューションを生み出してきました。これからも「患者さん中心」の姿勢を胸に、医療の未来をともに切り拓いてまいります。

**Boston
Scientific**
Advancing science for life™

ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社
本社 東京都中野区中野4-10-2 中野セントラルパークサウス
www.bostonscientific.jp

CORP-1937310-AB